

を酒にひたして二分位に切りたると、竹の子推茸などを二分角に切りたるを共にわちをつけて、包みて、二つに折合すれば、半月形即ち眉毛の如くなるなり、故に眉毛餃とはいふなり

### 紫とうふ拵方

豆腐を布に包みて、かたくしぼりて、すりばちにて搗て、器にとりて、別に紫蘇の葉をこまかくに切りて、搗盆にてすりたるを合せて、口紅を少し入れて豆腐ともすり合せて、紙に包むか、又程よく丸めて、蒸籠に竹の皮を敷たる上にじかに置て、湯にたてたる鍋の上にかけてむすべし

### 蒸いもの拵方

甘藷能く洗ひて、鹽湯又は潮を煮立て蒸籠でむす

## 幼児の腹當

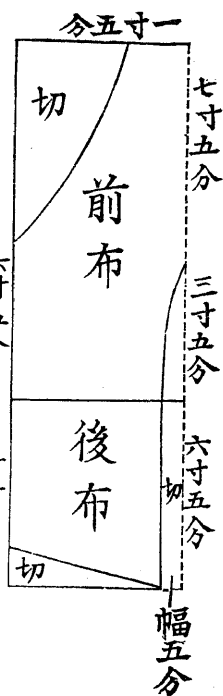
岡本 ちか

幼児は土用の如き最も暑き日にても決して腹部を冷してはなりません、下痢症などは是から起るものとが澤山ございます、殊に夜分はもし蒲團をぬぎても腹部の冷えぬ様に腹當をさせて置くことが肝腰でありますから、爰に其の極めて簡便なるもの、裁方縫方の一二を記しませう。

切は木綿幅長さ一尺七寸五分のもの表裏と紐とが入用であります、紐は幅二寸五分位長さ一尺八寸のもの長さ一尺位のもの二本とが入用であります。

第一紐を紵け置きて後の切の「イ」「ロ」の所にはさみて「ハイホ」「ニコへ」の所と左右の裾口とを表裏合せて縫ひ之を表に返して縫駢を致します。

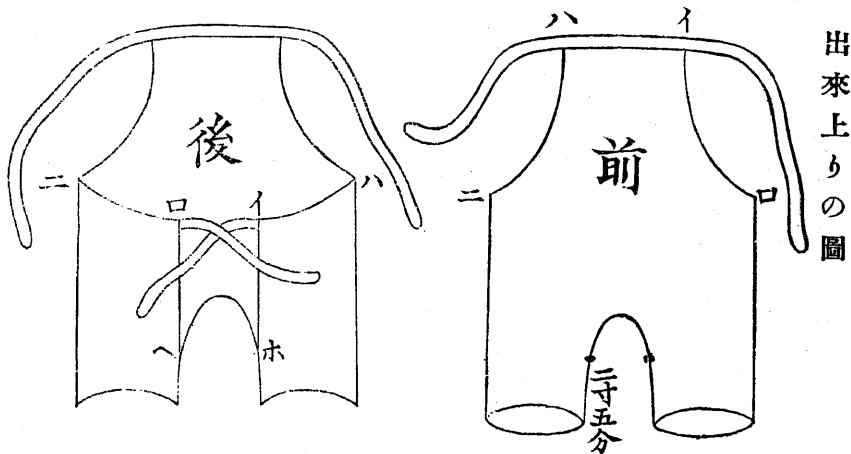
第二の方の切の「イロ」「ハニ」の所と左右の裾口と股の所を裾より二寸五分位のこし置き其あと、を表裏合せて縫ひ表に返して縫袷を致します。第三前布を以て、後布を挟みて脇の所と股の所と一裁方



第一圖

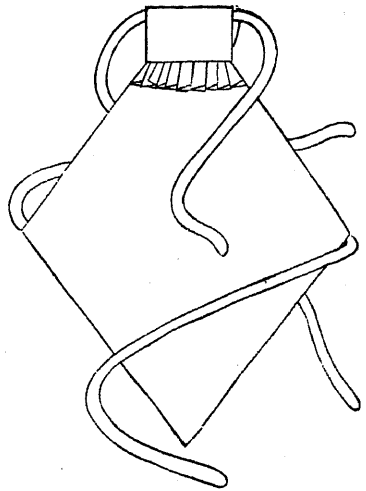
を四つ縫にして、次にあごの所に紐をつけるのでございます。又九寸四方位の切表裏と紐の切と別に三寸五分四方位のものとかさりの切少しばかりとにて三圖の如きものを作ることが出来ます。是は極めて簡便

第二圖



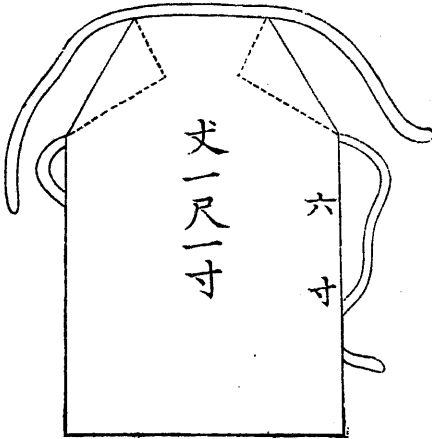
出来上りの圖

圖三第



圖四第

寸三

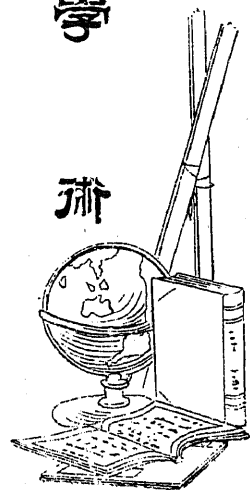


如きものも縫ふことが出来ず。

す。りま。で。あ。又。木。綿。幅。長。一。尺。一。寸。の。位。の。もの。と。紐。と。に。て。四。の。圖。

學

術



眼の話を(三)

本郷生

次に、網膜の一性質として吾等の考へて見たきことは、視覚の繼續とでも申すべきことで、吾等の網膜は光を送る原因が去つても其感じのみは暫く繼續して居ると云ふことです、よく子供の時分、篠や棺の尖さを火でやいて赤い炭となしたものを手速く動かし動かして其れが光りの輪をなすを見て楽しむとし、度々叱られたことがあるが、之れは